

堤防道路における第三者対策

福岡県土木施工管理技士会
株式会社廣瀬組
監理技術者
田中 久善

1. はじめに

本工事は、筑後平野中央を流れる一級河川筑後川下流域、大川出張所管内堤防の維持修繕を行う工事である。

工事概要

- (1) 工事名：平成30年度 筑後川水系
(大川地区) 河川維持工事
- (2) 発注者：九州地方整備局筑後川河川事務所
- (3) 工事場所：大川出張所管内
筑後川、広川、田手川
- (4) 工期：平成30年4月1日～
平成31年3月31日

2. 現場における問題点

大川出張所管内の堤防の特徴として、一般道を兼用する堤防がほとんどを占めている。

現場の問題点は、オーバーレイ工事の周辺環境への影響と第三者への対策とした。

- ① 幅員が3.5mと狭く。また、川表側には漁港があり地元関係者が利用する堤防道路でもあるため、通行止めの周辺住民の理解と協力が必要である。
- ② 乳剤散布直後において、合材運搬ダンプや工事車両が通行する際、タイヤに付着した乳剤により近隣の生活道路を汚す恐れがある。特にオーバーレイ工事は、当日に乳剤を散布してからの同日施工となるので、汚れることが予想さ

れる。従来の乳剤の養生方法は石粉を散布するなどの方法だが、施工完了直後の施工面を石粉の引きずり汚れなど苦勞する点でもある。

③ 工事運搬経路等の交通対策

危険個所の把握として堤防道路の危険個所の踏査、過去現場資料など洗出しが必要である。

3. 工夫・改善点と適用結果

問題点①の工夫として、行政区長の協力を得て工事内容、通行止め期間、工事個所、う回路図を記したチラシを地元関係者に配布する。

改善点として、施工位置と施工時期が異なる2回目のチラシ(図-1)の配布は、周辺住民に工事内容の周知不足がないよう配布時期を早め、現場予告看板(図-2)の内容がチラシ内容と一致するように改善した。

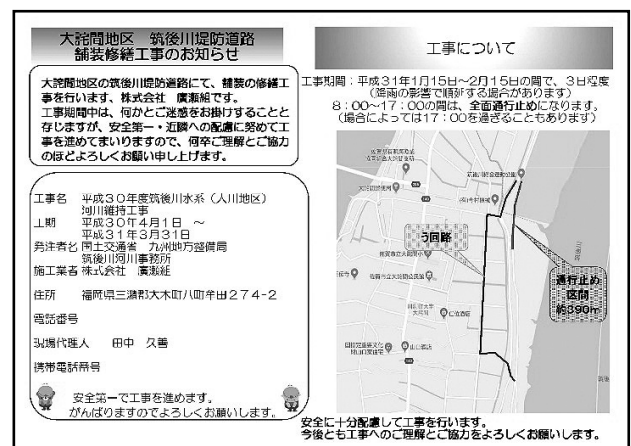


図-1 チラシ



図-2 工事予告看板

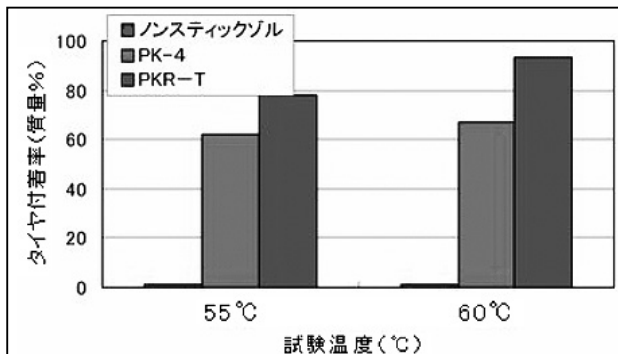


図-3 合材運搬ダンプ運搬状況

結果、当日通行止め規制時は、当初心配された周辺住民や一般の通行者からのクレームやトラブル等は無くスムーズに完了した。

問題点②の工夫・改善点として、タックコートにタイヤ付着抑制型乳剤ノンスティックゾル（前田道路株式会社 NETS番号HR-130001-VE）を使用した。ノンスティックゾルの特徴として、従来の使用する乳剤PK-4やPKR-Tと比較すると、タイヤ付着率（表-1）が10分の1となり、十分な付着抑制効果が望める為、採用した。

表-1 ノンスティックゾルの付着抑制効果
※前田道路株式会社ホームページ技術情報



結果、乳剤のタイヤ付着による周辺道路への影響はほとんどなく、また、一般車の車体への汚れもなかった為、環境対策として十分な効果を発揮したと思われる。（図-3）

なお、河川工事において事案となる油流出事故にも効果があり。副次的効果として、乳剤の河川流出等も防げる結果となる。

問題点③の工夫・改善として、現場の危険個所の洗出しを行い、ハザードマップを作成、新規入場者教育資料や安全訓練資料とした。内容は、現場全体の平面図に危険個所を明記。1件ごとに分かりやすい航空写真平面図に注意事項を記入する。また、継続的に内容を更新し、作業員の経験から意見も取入れ有効活用した。結果、交通事故等はなく全工事期間中無事故で完了した。

4. おわりに

問題点①は、現場の調査が重要であり、交通量や車種、通行時間帯のピーク、地元行事の把握など地域の様々な点を調査する必要があった。結果、周辺住民とのコミュニケーションがとれ、トラブル回避につながった。

問題点②は、河川工事のアスファルト舗装が抱える問題点を含め、現場特有の周辺環境を考慮した新技術を採用した結果、環境への影響もなく無事に工事が完了した。

問題点③は、周辺環境と同じく現場の調査が重要であり、調査結果は、将来の周辺工事に活用するためノウハウをデータとして蓄積した。

最後に、現場の特性をよく理解している慣れ親しんだ地元の工事であるが、さらに掘り下げて調査することにより、環境にやさしい安全な現場が完成した。また、無事に工事が完了したことを周辺住民の皆様の協力に感謝したい。